

博物館だより

No.41

平成21年9月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

博物館友の会

講演会

友の会が主催する文化講演会が以下の日程で行われます。会員外の方も聴講いただけますのでふるってご参加ください。

♪日時 平成21年9月20日(日)
13時30分～

♪場所 当館 研修室

♪講師 北九州市立いのちのたび博物館学芸員
古谷 優子先生

♪演題 「豊前の仏教美術」

♪備考 会員外の方の聴講は資料代として実費3000円をいただきます。



9月期歴史講座のご案内

【漢詩文講座】

9月5日(土) 9時30分～

【古文書講座】

9月12日(土) 10時00分～

【古典かな講座】

9月19日(土) 9時30分～

【金曜古文書講座】

9月25日(金) 10時00分～

【みやこ学講座】

9月26日(土) 10時00分～

歴史学習DVD

みやこの

歴史発見伝!

平成20年度に当館が制作した歴史学習DVD「みやこの歴史発見伝!」を実費にて配布しています。町の史跡などを紹介した8本の実写映像と、昔話をイラストで紹介した2本の「映像紙芝居」の、計10本のソフトを収めています。町の歴史を知るには絶好の教材です。ぜひ、お手元に!

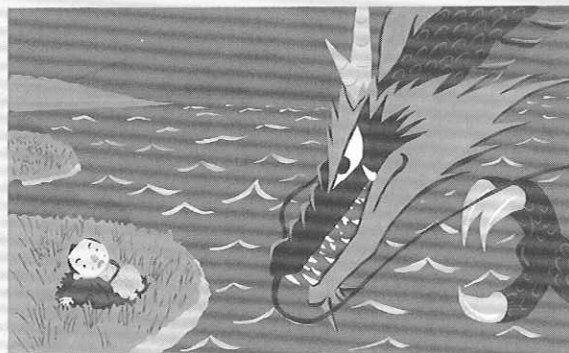
■収録映像のタイトル

■実写

- 「みやこ町ってどんな町?」
- 「豊前国府と国分寺」
- 「豊前国分寺三重塔」
- 「みやこ町の古代寺院」



▶DVD「みやこの歴史発見伝!」



▲「小松ヶ池の龍と胸の観音」ワンシーン

- 「みやこ町の大きな古墳」
- 「永沼家住宅」
- 「みやこ町の近代化遺産」
- 「旧制豊津中学校講堂・思永館」

■映像紙芝居

- 「生立さまのしぼり龍」
- 「小松ヶ池の龍と胸の観音」

◎合計映像時間約1時間

■配布価格

1枚1000円(実費)

■配布場所

「館窓口カウンターにて。」

《古文書解読コーナー》

① 未解

② 〈ヒント〉0時から3時頃まで

③ 智恵

④ 〈ヒント〉ころろの輿

⑤ 徒黨

⑥ 〈ヒント〉仲間が団結

⑦ 再登

⑧ 〈ヒント〉くり返すこと

⑨ 幼珠

⑩ 〈ヒント〉人が行ってきた事柄

◎答え

(反対向きに見てください)

- ① 未解
- ② 心算
- ③ 智恵
- ④ 輿
- ⑤ 徒黨
- ⑥ 団結
- ⑦ 再登
- ⑧ くり返すこと
- ⑨ 幼珠
- ⑩ 事柄

みやこの歴史発見伝 30

蛇淵をめぐるものがたり

「滝の神祕が生んだ「語り」と「ゆかり」」

レジャーの場に遺される伝説

この夏も多くのレジャー客で賑わった蛇淵キャンプ場（みやこ町犀川帆柱）の核となる自然の造形「蛇淵（の淵）」に次のような伝説が遺されることをご存知ですか。

ある夜のこと、帆柱村の庄屋屋敷（現重要文化財「永沼家住宅」との説あり）の戸をたたくものがあり、何ごとか？といぶかしむ庄屋さんが戸を開けて見ると、そこには水もしたたるような美しい娘が一人立っていました。

「こんな夜更けにどうなされたかの？」 訝ありげなそぶりの娘に庄屋さんが問いかけると「はい、実は私はこの先半里（約2km）にある蛇淵に住む龍神でございませうが、どういうわけかこのところ淵が浅くなってわが身を隠すことにも難渋するようになりまして。このままでは神通力も衰えて神の務めも果たしがたくなるゆえ、山向こうにある山国の蛇淵へ移り住むことを決意したのでございます。

ついては峠越しの長い道中の



▲今も神秘的な姿で流れ続ける蛇淵の滝（冬の景）

食糧に握り飯を分けて頂きたく参った次第でございます」

これを聞いた庄屋さんはびっくりしてしまいました。これは動かし難いと知るや急ぎ家人を起こして握り飯を作らせ、娘姿の龍神にわたしました。

「おかげで峠越しができません。しかし私がいなくなっても心配にはおよびません。水に困った際には山国の蛇淵へお越しただければ必ず雨をふらせませう」龍神はそう言い残して庄屋屋敷を立去りました。

これ以降蛇淵の滝に主（龍神）はいなくなりましたが、村人が

山国の蛇淵へいつて雨乞いをすれば必ず雨がふるようになりました。

というものです。他愛もないといつてしまえばそれまでの話である一方、この伝説には次のような魅力もあるのです。

即ち、伝説の舞台がほぼ当時のままの姿で現存していることや、それにちなんだ他の伝説やゆかりの品・遺跡が生み出されていることであり、単なるフィクションと片付けるには余りに惜しい、豊かな創作と情趣の世界が展開しているのです。伝説が生んだ伝説と所縁と

蛇淵の伝説から生まれた伝説や、伝説ゆかりの事物や事績には次のようなものが知られています。

前者（伝説から生まれた伝説）は龍神の正体に関わるもので、蛇淵のある帆柱地区にはもう一つよく知られた伝説として「おむくさんの話」とよばれる哀話があるのですが（父親を亡くした木地師の娘おむくが悲しみのあまり蛇淵に身投げしたというもの。博物館だより34号で紹介した）その哀話の主人公おむくは死んだ



▲蛇淵の滝に隣接するおむくの墓

「淵の主（龍神）となったというものです。

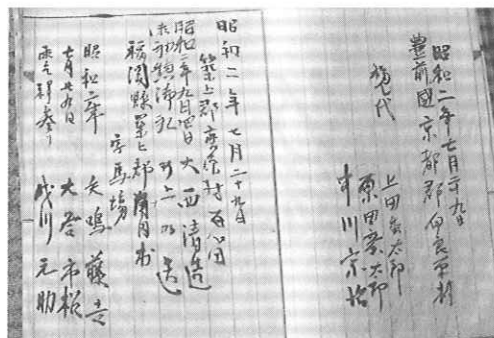
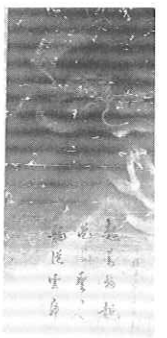
日本には御霊信仰とよばれる、現世に名残を残して死したものは荒ぶる神になるとの信仰がありますが、この神は厚く祀ることで福神に転じるともされており、菅原道真（天神）がその代表格とされています。

おむく（実名はおふじ）は実在の人物で、宝暦十年（一七六〇）になくなり墓が建てられています。が、現在も地元の人々から厚く供養される現状はこうした信仰の産物と捉えることができます。

後者（伝説ゆかりの事物・事績）についてはおむくの墓への供養と同じく昭和初期まで実施の記録が残る山国の蛇淵への雨乞いがこれにあたります。

「山国の蛇淵」は中津市山国町中詰にあり、吉峯家とよばれる旧家が「淵守」を務めていました。吉峯家は帆柱はもろろん祓川流域や築上郡・耶馬溪一帯からやつてくる雨乞い祈願の人々の取り次ぎを行い、往時はこれによる尊崇を集めていたといえます。また龍神が遺したと伝える画幅もあって、降雨の霊験あるときは画幅に水滴が浮かぶという伝えもあるそうです。

こうしてみると派生した創作の世界の豊かさ、これに共



▲昭和2（1927）年の雨乞の受付記録（左）と龍神が遺したと伝える龍の画幅（右）

感した人々の存在やその広がりには驚くばかりです。滝を含む自然の造形に対する崇敬（アニミズム）や御霊信仰は、古来人々の想念や感受性を豊かにし、文学や芸術の進展を援けたといえますが、その身近な例の一つが蛇淵をめぐるといえる世界に

このように伝説を追求・検証する作業は、単に事の実否を突き詰めるだけではない、味わいや奥深さを含むことがわかります。蛇淵に出かけた際にはキャンプの傍ら、そんな世界に思いをはせてみるのも面白いかもしれませんね。

（木村達美）